授業科目名： 発達障害の判定と その教育的対応Ⅱ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名：西永　堅 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科　目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		

「学位授与の方針」との関係

本科目は、特別支援教育に関する科目であるが、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりの発達は同じではないことを前提としており、その個人差の測定を学修する科目である。他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の３つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけるための科目である。

授業の到達目標及びテーマ

授業の教育目標

（１）発達障害の中心である知的障害、自閉症と共に LD の定義を参考にしながら、LD の判定のための心理検査にはどんなものがあるかを知り、その検査法を身につける。

（２）実際に WISC-Ⅳ、K－ABCⅡ検査方法を理解する。

（３）心理検査の結果のまとめ方を学習し、LD、ADHD、自閉スペクトラム症等、知的障害の特徴について理解する。

特別支援教育の発展に伴い、新たにその対象に加えられるようになった「学習障害（LD)」を中心に、判定方法とその教育的対応の具体的方策を学習することを目的とする。

学習障害（LD）とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」等の学力の習得と使用に著しい困難を有する者を指し、文部科学省の調査によれば、ADHD（注意欠陥／多動性障害)、高機能自閉症等と合わせると学齢児の６％以上存在することが指摘されている。

これらの子どもの適切な教育のためには、その判定の方法が確立していなければならず、またその判定技能を身に付けることが必要である。

学力に遅れが見られる児童生徒について、特に算数･数学、国語の学力を精査し、LD の疑いがあれば、医学的な検査を専門医に依頼するとともに、各種の心理検査を実施し、その結果に基づいて適切な教育的対応を行う必要がある。

本講は、一般的発達検査、知能検査とともに、WISC-Ⅳ[NK1]、K－ABCⅡ等 LD 等の判定に必要な心理検査の実技を身に付けるとともに、その教育的対応について学ぶことを目的・ねらいとするものである。

授業の概要

各発達障害の定義について学ぶ。また、それらの障害を判定するためのアセスメント方法を、実際に学修していく。本授業はスクーリングのみの授業である。なお、発達障害の判定と

その教育的対応はスクーリングのみの科目であるが、（Ⅰ）と（Ⅱ）に分かれており、（Ⅰ）では、学習障害の定義とその教育的対応、心理検査の歴史と、心理検査の方法を学ぶ。（Ⅱ）では、（Ⅰ）で学んだことを参考に、実際に心理検査の実習的学修を行い、その結果のまとめ方について学ぶ。（Ⅰ）と（Ⅱ）を連続して受講することを望む。

授業計画
第１回： 心理検査の活用方法
第２回： 知能指数，知能検査について
第３回： WISC-Ⅳとは：全検査 IQ・合成得点について
第４回： WISC-Ⅳとは：言語理解・知覚類推について
第５回： WISC-Ⅳとは：ワーキングメモリー・処理速度について
第６回： K－ABCⅡとは：認知尺度と習得度尺度について
第７回： K－ABCⅡとは：継次処理・同時処理について
第８回： K－ABCⅡとは：学習能力・計画能力について
第９回： LD がある子どもの知能検査結果の特徴について
第１０回： ADHD がある子どもの知能検査結果の特徴について
第１１回： 自閉スペクトラム症である子どもの知能検査結果の特徴について
第１２回：その他の心理アセスメントについて
第１３回：検査結果のまとめ方
第１４回：検査結果の指導の活かし方
第１５回：保護者・本人への結果の伝え方
定期試験

スクーリングでの学修内容
全てスクーリングで行う科目なので第１回～第１５回を全てスクーリングで行う。

教科書
（１）安住 ゆう子 編著（2019）改定新版発達が気になるときに読む 心理検査入門: 特性にあわせた支援のために』合同出版
（２）文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版　平成 29 年

参考文献
（１）『親と教師のための LD 相談室』中央法規
（２）『学習障害・学習困難の判定と支援教育』文教資料協会
（３）本講義で配布する資料

学生に対する評価
スクーリング評価（５０％)、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。